

「主な取組」検証票

施策展開	2-(2)-ウ	子ども・若者の育成支援		
施策	①子ども・若者の支援に向けた環境づくり			
主な取組	青少年健全育成事業	実施計画 記載頁	91	
対応する 主な課題	夜型社会、飲酒に寛容、他人の子どもに無関心などの地域社会の問題、親子関係の希薄化等から少年非行の低年齢化が課題となっていることから、青少年が健全に成長できる環境を整備する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	【目的】 非行少年を生まない社会の実現 【取組】 ①非行防止教室(安全学習支援授業)の開催による少年の規範意識の向上 ②保護者カウンセリングによる保護者の監護能力の向上 ③スクールサポーターの学校への派遣 ④学校、教育委員会及び少年警察ボランティア等と連携した居場所づくり、立ち直り支援活動等による少年非行防止・健全育成活動の推進 ⑤非行少年の検挙・補導活動及び少年補導員と連携した街頭補導活動の強化						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	非行防止教室(安全学習支援授業)等による規範意識の向上					→	県
	非行少年の検挙・補導活動、街頭活動の強化						
担当部課	警察本部生活安全部少年課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
○刑事警察活動費 ○少年対策費 ○職員費	94,914	90,105	■大学生少年サポーターの活用(83人委嘱) ■安全学習支援授業等の開催(延べ181回、参加者数70,023人) ■保護者カウンセリングの実施(16回、参加者457人) ■少年警察ボランティア等と連携した立ち直り支援活動の実施 ■スクールサポーターによる健全育成と非行防止対策の実施(6人が12校において活動中) ■少年補導職員(33人)による街頭活動、少年相談、保護活動等の実施 <div style="text-align: right;">【全て県単等】</div>	
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
推進状況	取組の効果			

様式1(主な取組)

<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	各種非行防止対策及び健全育成対策を講じた結果、刑法犯少年の検挙・補導人員が1,090人と前年比330人(-23.2%)減少した。
--	--

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
○ 刑事警察活動費 ○ 少年対策費 ○ 職員費	94,162	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学生少年サポーターの活用 ■ 安全学習支援授業等の開催 ■ 保護者カウンセリングの実施 ■ 少年警察ボランティア等と連携した居場所づくり、立ち直り支援活動等の実施 ■ スクールサポーターによる健全育成と非行防止対策の実施 ■ 少年補導職員による街頭活動、少年相談、保護活動等の実施 <p style="text-align: center;">【全て県単等】</p>	

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業推進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
刑法犯少年の検挙・補導人員	1,420人 (H23年)	1,090人 (H24年)	1,250人 (H28年)	330人	79,393人 (H24年)
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
状況説明	各種非行防止対策及び健全育成対策を講じた結果、刑法犯少年の検挙・補導人員が1,090人と前年比330人(23.2%)減少した。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

刑法犯少年の検挙・補導人員は減少しているが、全国と比較して再犯者率が高い。
 ※再犯者率(平成24年) 沖縄県 43.6% 全国 33.9%

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- 大学生少年サポーター等の少年警察ボランティアやスクールサポーターを活用した再非行防止のための立ち直り支援活動の更なる強化、活性化
- 学校、自治体、関係機関、少年警察ボランティア等と連携した街頭活動の強化

4 取組の改善案(Action)

様式1(主な取組)

- これまでの取組により刑法犯少年は平成18年から7年連続減少するなど一定の成果を上げており、今後も現在の取組を継続する必要がある。
- 他方、刑法犯少年の再犯者率が全国平均を上回る状況にあることから、再び非行に走りかねない少年の立ち直りを支援するため、大学生少年サポーター等少年警察ボランティアやスクールサポーターの充実、強化を図るなどして、非行を繰り返す少年に対して積極的に手を差し伸べる「少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動」をさらに強化する。